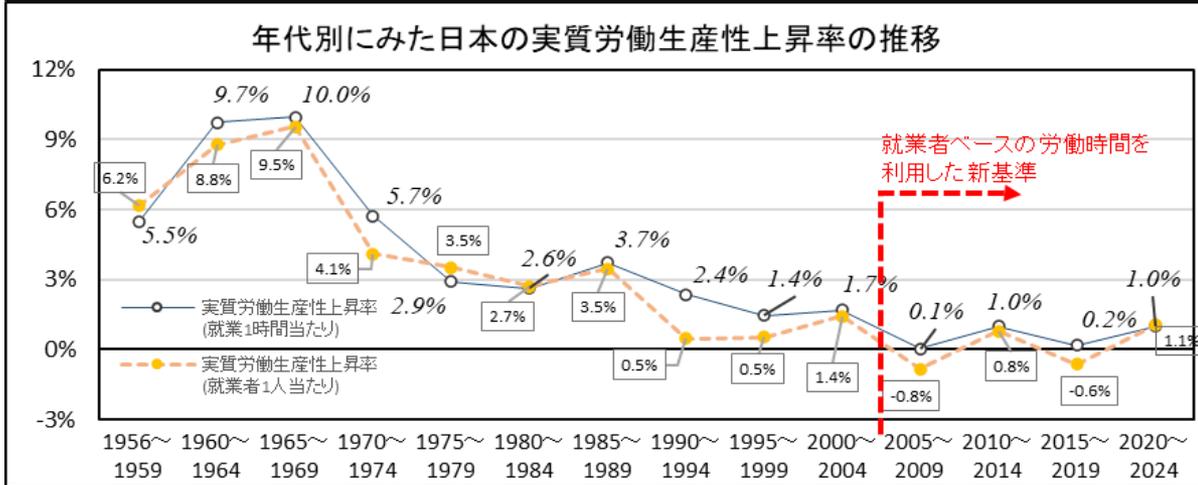
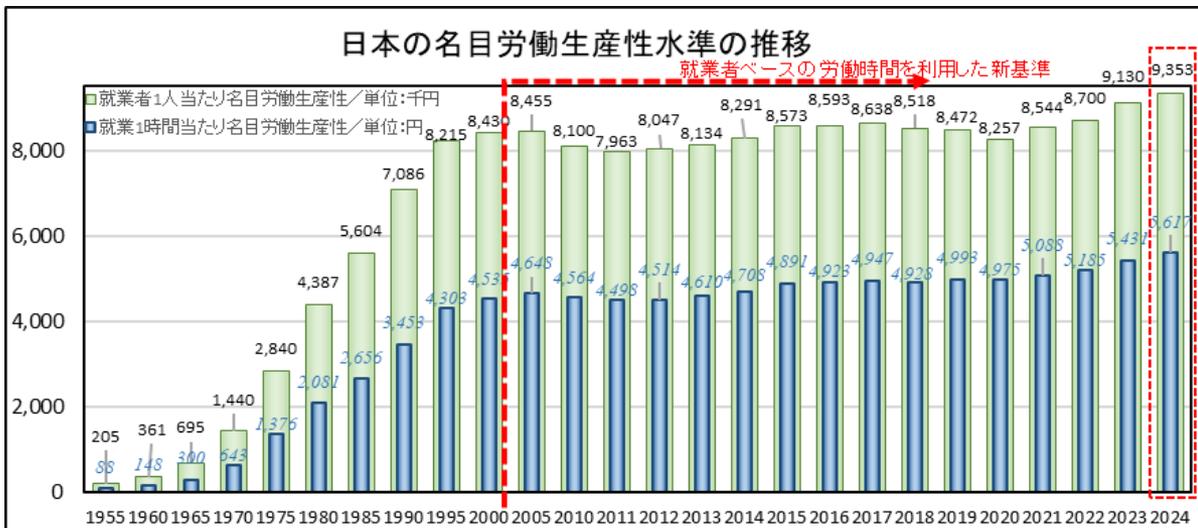


日本の労働生産性の推移

- 日本の名目労働生産性水準は、就業1時間当たりでみると5,617円(2024年)。
- 就業者1人当たりでは935万円(同)。
- 労働生産性上昇率の推移をみると、リーマン・ショック等の影響で2000年代後半(2005~2009年平均)に就業1時間当たりで+0.1%(年平均)、就業者1人当たりで-0.8%となった。
- 2010年代前半(2010~2014年平均)になって持ち直したものの、2010年代後半(2015~2019年平均)は再び0%近傍に落ち込んでいる。その後2020年代前半になると回復に転じるなど、やや循環的な推移となっている。



※内閣府「国民経済計算」・総務省「労働力調査」・厚生労働省「毎月勤労統計」をもとに日本生産性本部作成
 ※就業者ベースの労働時間を利用した新基準: 就業者ベースの労働時間として内閣府「就業者の労働時間数に係る参考系列」(2005年以降)が公表されており、上記新基準は内閣府の当該参考系列を利用したものである。2004年については、雇業者ベースの厚生労働省「毎月勤労統計調査」総実労働時間数を利用する従来系列を利用している。両者は利用データが相違するため、時系列的に連続しないことに留意されたい。